

HANA

すべての人がアートを通じて自由に自分を表現したり、互いの感性を交感することができるコミュニティ・アートセンターです。障害のある人たちが個性をいかしながらビジュアルアートやパフォーマンスアートに取り組むスタジオ、今を生きる人たちの表現を紹介するギャラリー、コミュニケーションの場としてのカフェ&ショップ、アートの可能性について探求するインフォメーションセンターやミーティングルームがあります。



写真：衣笠名津美



社会福祉法人わたぼうしの会たんぽぽの家アートセンター HANA
(生活介護事業：30名 / 就労継続支援B型：10名)

所在地：〒630-8044 奈良市六条西3-25-4
営業日：火曜日～土曜日 10:00～17:00

| アトリエ - atelier





| 陶芸 - ceramic



| パフォーマンス - performance



ダンス - 身体表現



語り



演劇的ワークショップ



地域の人にも利用できるカフェ
サロンや貸し館、展覧会などを行う

コミュニティカレッジ - 余暇 / 学び

楽しみや学びを「生き方の幅を広げるもの」ととらえ、多様なプログラムを展開



ネイルプログラム



好きなものくらぶ



アレンジフラワー

| ギャラリー - gallery



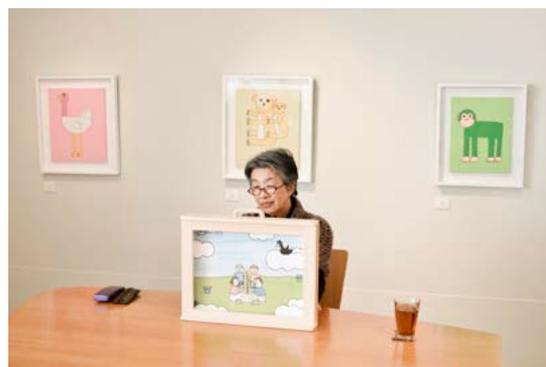
国内外で活動するアーティストを障害のあるなしに関わらず紹介するギャラリー



障害者アートの公募展「かんでんコラボアート」の巡回展の会場としても使用
※主催：関西電力



全国にある施設の商品を販売する展示会



外部の作家や団体を招いたWSや公演



山野 将志
yamano masashi

1977年生まれ 奈良県在住
1995年よりたんぼぼの家で活動をはじめ

植物や動物・昆虫などの生命と対話するように描く。森や空などの自然を全身で感じ取り、力強い線と豊かな色彩を重ねていく。お出かけすること、人にしゃべりかけること、ご飯を食べに行くこと…。すべてが自分を表現する大切なものとしてつながっている。2006年にオーストラリア、2009年に中国・上海など、海外での作品発表、創作活動を体験した。

〈個展〉

- 2011年 「ヨリコレミドリ 山野将志展」(大阪／高島屋大阪店・ギャラリー NEXT)
- 2018年 「山野将志個展 " 森羅万象 "」
(鳥取／くらしアートミュージアム無心、とりぎん文化会館・山陰合同銀行ギャラリー)
- 2019年 「山野将志展」(東京／松坂屋上野店本館7階・上野が、すき。ギャラリー)

〈グループ展〉

- 2012年 「違って独特」(韓国／京畿近代美術館)
- 2016年 「TURN フェス」(東京／東京都美術館)
- 2019年 「Artists～在り続ける表現者たち」(東京／渋谷ヒカリエ8階 MADO)

〈作品使用〉

- 2017年 茶室の壁紙 (京都市立芸術大学)
- 2018年 壁画プリント (株式会社アムラックトヨタ)
タンブラー (公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会)
- 2020年 ウィンドウラッピング (トヨタ会館)

〈パブリックコレクション〉

- 2013年 株式会社リブドゥコーポレーション新設工場へエントランス巨大壁画 (愛媛)
- 2019年 桃山学院大学の校舎への巨大絵画
(企画名：ART GUSH IZYMIU CITY / 主催：和泉市 / 企画：株式会社一八八)
- 2020年 コンベンションセンター奈良のエントランスに飾る絵画作品 (奈良)

〈その他〉

- 2015年 見本市「rooms」(東京)でのライブペインティング



「オーストラリアの島」 アクリル、紙、パネル / 970×1620



「海に浮かぶ島」
アクリル、紙、パネル / 1167×910



「ファソンの絵」
アクリル、紙、パネル / 727×1167



「お水のんでるラクダさんの絵」
アクリル、紙、パネル / 728×1030



中村 真由美
nakamura mayumi

1985 年生まれ 奈良県在住
2004 年よりたんぼぼの家で活動をはじめ

生活の中でなにごとにも素直でまっすぐにまい進する様子が、画面に向かうと自分の目で捉えたものを強い筆跡で描きあげることに代わる。動物や人物のイラストを描いてきたが、近年“ハリポテ（張り子）”制作にとりくむようになる。自分の思いを独自の表情や人の口まねで表現したり、小さいいたずらを楽しんだりするおちゃめな一面も。そんな毎日の出来事を、幼いころから絵日記につづっている。

〈個展〉

- 2016 年 「中村真由美巡回個展 " 平行するスタンダード "」
（鳥取／くらしよアートミュージアム無心、米子コンベンションセンター、とりぎん文化会館）
「エイブル・アート・アワード " 中村真由美 展 "」（東京／galleria grafica bis）

〈グループ展〉

- 2012 年 「違って独特」（韓国／京畿近代美術館）
2016 年 「TURN フェス」（東京／東京都美術館）
2017 年 「3331 Art Fair 2017」（東京／アーツ千代田 3331・3331GALLERY）
「OPEN KIT-CHEN」（京都／京都市立芸術大学 @KCUA）

〈作品使用〉

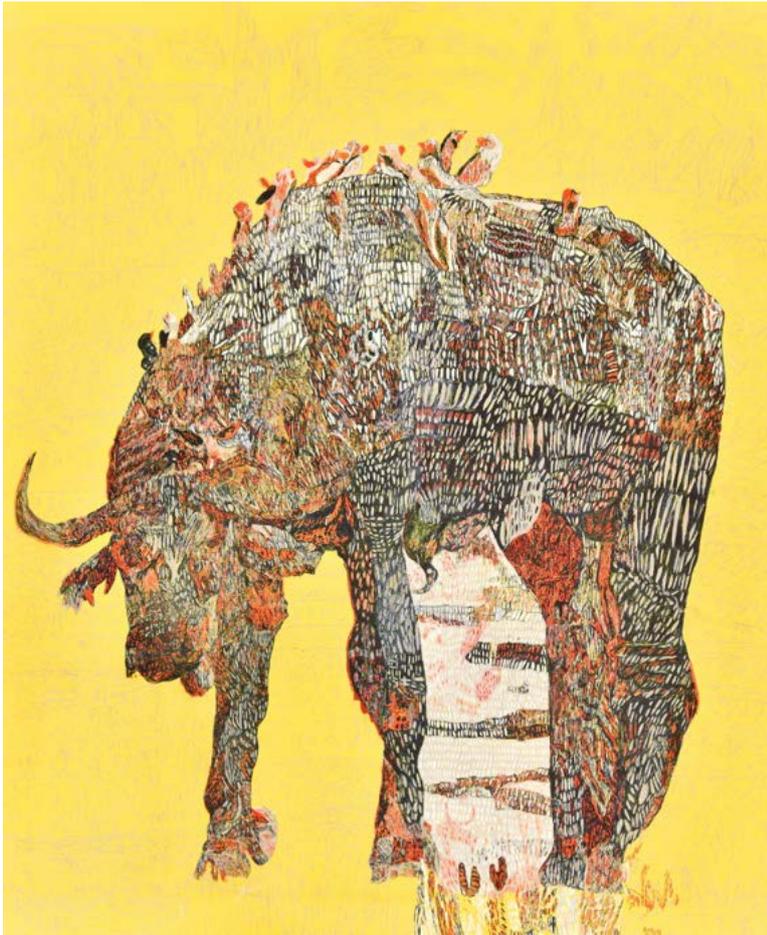
- 2015 年 マスコット「鹿コロコロ」（株式会社中川政七商店）
シェルターからコックピットへ 飛び立つスキマの設計学（著：椿昇／産学社）
2016 年 奈良県立医科大学付属病院・小児病棟へのオブジェとマグネット
（企画：特定非営利活動法人アーツプロジェクト）
2018 年 タンブラー（公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会）
2019 年 洋服（ネ・ネット）

〈パブリックコレクション〉

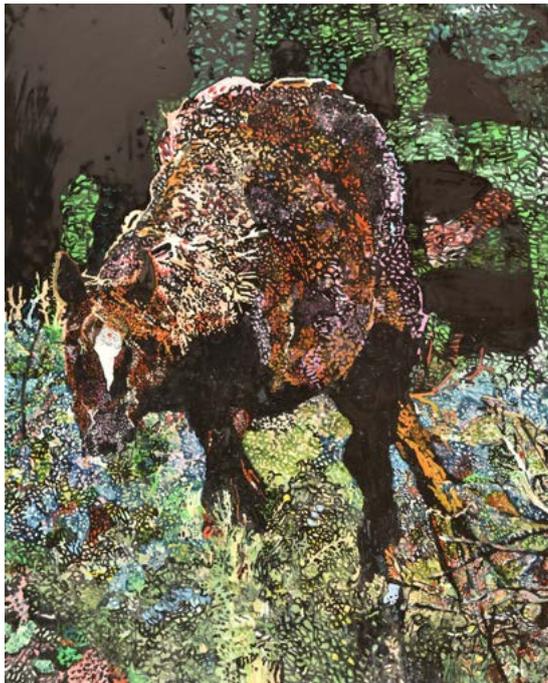
- 2019 年 桃山学院大学の校舎への巨大絵画
（企画名：ART GUSH IZYMIU CITY／主催：和泉市／企画：株式会社一八八）

〈その他〉

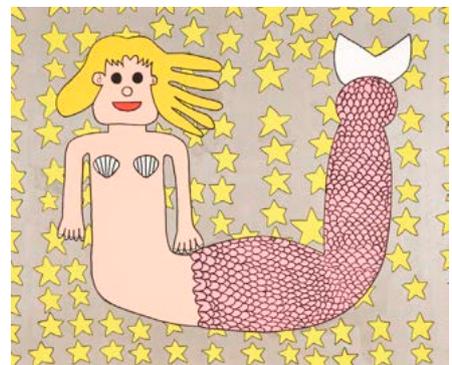
- 2018 年 奈良県害者大芸術祭にて作品をモチーフにした創作 WS を行う



「水牛」
ペン、アクリル、キャンバス
803×652



「馬」
油彩、キャンバス／1620×1363



「人魚」
アクリル、顔料マーカー、キャンバス
606×727



「ハリボテ シリーズ」
アクリル、顔料マーカー、紙



伊藤 樹里
ito juri

1977年生まれ 奈良県在住

1995年よりたんぼぼの家で活動をはじめ

一日4回のラジオ体操、紅茶づくり、「ニュース」かき、薬のカラ集め、鉛筆の削りカス集め、ラジオ深夜便を聞くこと…etc.、好きなこと・やりたいことが彼女の仕事である。そのうち、「ニュース」の文字を“筆”で書くことを発見してから、書が最も好きな仕事となった。毎日の気になるできごとや、覚えた自慢の漢字を、とめどなくしゃべりながら書く。

(書家 雅号：伊藤游兔 / パフォーマー：JURIX)

〈個展〉

2012年 「存在と生活のアート “JURIX WORKS”」(東京 / A/A ギャラリー)

〈グループ展〉

2011年 「ART PICNIC - 美術をたのしむ」(兵庫 / 芦屋市立美術博物館)

2012年 「違って独特」(韓国 / 京畿近代美術館)

2016年 「表現の森 - 協働としてのアート -」(群馬 / アーツ前橋)

2017年 「OPEN KIT-CHEN」(京都 / 京都市立芸術大学 @KCUA)

「WSMA - 木造校舎現代美術館 - " GINGA "」(奈良 / 旧西小学校)

2020年 「であう、つたえるをかんがえる」(京都 / Fab cafe 京都)

〈公演〉

2010年 奈良弁護士会との協働プロジェクト「憲法絵本と語りの会」にて語りを担当
※現在も継続して、日本各地の美術館や学校にて年間5~10公演を行う

2012年 「鳥の演劇祭5 - カタルシス -」(鳥取 / 鳥の劇場)

2016年 「ACTION！」(大分 / 大分県立美術館)

「状況のアーキテクチャー " Tracing Memories: ラップ × 介護 × アート "」
(京都 / 京都芸術センター)

2017年 「共創の音楽劇 鳥の宗教」(奈良 / 奈良市ならまちセンター市民ホール)

〈作品使用〉

2012年 服薬トレ「掌」(LLC オフィスカラム・兵庫医療大学)

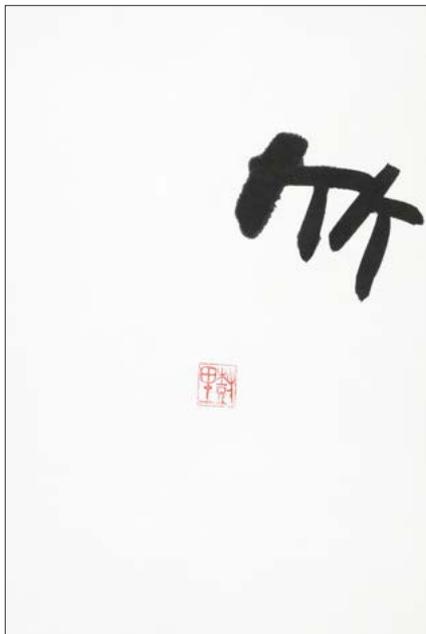
2016年 学会プログラム、記念トート、オリジナルTシャツ各デザイン(同志社大学)

2017年 マスキングテープ(公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会)

2019年 ハンカチ(公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会)



「JURIX WORKS」 20年以上集めている薬のカラ



「竹」
墨、和紙 / 450×350



「ラジオ体操パフォーマンス in 高知城」



「憲法絵本の語り」
協力：奈良弁護士会



武田 佳子
takeda atsuko

1957年生まれ 奈良県在住
1980年よりたんぼぼの家で活動をはじめ

猫を中心とした動物を愛し描いていたが、浮世絵と出会ったことで人間に惹かれ始める。瞬発的に生まれる力強い線は息の合うサポートがあってこそ。生命あるものを描き、自分の存在と重ねあわせることで、どう生きたいかを自らに問いつづけている。

<個展>

2005年 「千変万化～生色 武田佳子展」(奈良／アートセンターHANAギャラリー)

<グループ展>

2012年 「違って独特」(韓国／京畿近代美術館)

2014年 「花は咲きたい - 小松和子・武田佳子 二人展 -」
(大阪／高島屋大阪店・ギャラリーNEXT)

2017年 「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会 "HAPPY SPOT FUTURE"」
(奈良／奈良県文化会館展示室)

2018年 「ひと・アート・まち - 祝祭のアート -」(大阪／難波神社)

2019年 「創造のいろは」(鳥取／米子市美術館)

「エイブル・アート展」(岐阜／可児市文化創造センター)

2020年 「騒ぐイマジネーション」(石川／めいてつ・エムザ 美術サロン)

<作品使用>

2008年 TBSドラマ「だいすき」スタジオセットへの作品使用

2017年 オリジナルリサイクルバッグ(株式会社高島屋)
茶室の壁紙(京都市立芸術大学)

<アートレンタル>

2010年 蕎麦屋「案山棒」(静岡)

2014年 JOHNNAN 株式会社(京都)

<レジデンス>

2006年 「オーストラリア交流プログラム」(豪日交流基金助成)



「女は愛嬌」
顔彩、墨、和紙 / 1400×590



「私は竹下しめじよ」
顔彩、墨、和紙 / 1400×700



「わぁーくちのながたまごでいっぱい」
顔彩、墨、和紙、パネル / 520×770



「涙」
顔彩、墨、紙 / 785×545

| グッズ - goods

アートグッズ

アート作品を使ったオリジナル
グッズの販売



手ぬぐい / クリアケース / シルクスクリーンTシャツ



複製画 / キーホルダー / ポストカード



画集 / 缶バッチ / マグネット

土鈴「厄除鬼」 / 転写陶器

陶芸プログラムで製造している陶
器の商品で、製造から販売までを
メンバーが中心に行なっている



土鈴「厄除鬼」

メンバーのイラストを陶器に転写

手織り / テキスタイル

織りや布製品をつくるテキスタイルプログラムで、毎年秋に奈良町で展示販売会を行う



手織り展の展示風景



手織りグッズ



フェルトバック



刺繍の付け襟

デザイン使用

企業やクリエイターなどに、デザインとしてもアート作品が使用されている



中川政七商店「鹿ココロ」



Né-Net「ワンピース」





| 展覧会 - exhibition

県内外で様々な企画展を開催
年間30展以上の展覧会に出展
海外の展覧会に出展



「ゆるやかにひろがる」

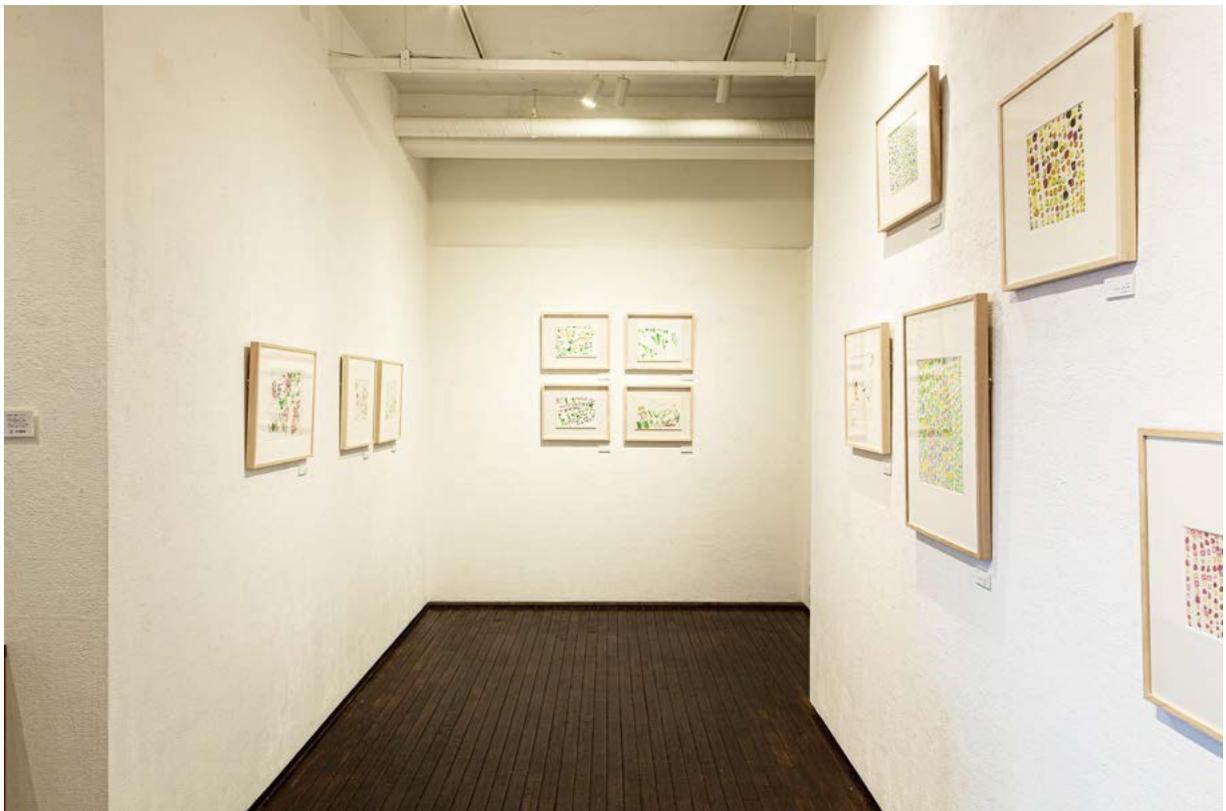
前田考美

itohen / 大阪

2020年



写真：鯨坂兼充



福岡左知子個展「miamoo.」

maru room / 奈良

2019年



福岡が制作する手織り部屋の風景と実際に使っている織り機と合わせて展示
会期中には福岡の作品を身にまとい、チェキカメラで撮影するWSも開催

創造のいろは

米子市美術館／鳥取 2019年

障害のある人が制作する際に使う、特製の筆などの道具を展示



車椅子の人が足で描くための靴と筆



握力の弱い人が握りやすくなるために
工夫された筆と制作風景

小松和子個展「紡ぐ絵画」

くらよしアートミュージアム無心
倉吉未来中心

鳥取県内2ヶ所／2019年

※アートミュージアム無心の展示風景



身体障害のある小松が使う
特製の筆や画材も展示



学園前アートフェスタ 2018

大和文華館、浅沼記念館 ほか／奈良 2018年

「街育」を目的とした現代アートの芸術祭に招待作家として展示



ギャラリートークでの
パフォーマンス



会期中の公開背作



山野将志個展
「森羅万象」

くらよしアートミュージアム無心
とりぎん文化館
山陰合同銀行鳥取ギャラリー
鳥取県内3会場の巡回／2018年

※とりぎん文化会館の展示風景





中村真由美巡回個展
「並行するスタンダード」

くらよしアートミュージアム無心
米子コンベンションセンター
とりぎん文化館
鳥取県内3会場の巡回／2016年

※コンベンションセンターの展示風景





小松和子・武田佳子二人展
「花は咲きたい」

高島屋大阪店
ギャラリーNEXT / 大阪
2014年

※作家によるギャラリートークを開催
(左：サポーター前田 / 右：小松)



作品出展

「であう、つたえるを
かんがえる」
京都アートホテル
クマグスク
／京都
2020年



「めぐるアートをめぐる」
京都場
／京都
2019年



「MUSEUM OF TOGETHER
SIRCUS」
渋谷ヒカリエ 8/COURT
／東京
2018年



「モノが物語る意匠の文化史」

奈良県立図書情報館

奈良県文化会館

／奈良

2017年

※メイン作品（160cm×4m）

描き下ろし



「WAMA ヲズマ
- 木造校舎現代美術館 -」

奈良カエデの郷ひらら

／奈良

2015年

※会場での公開制作の風景



「違って独特」

京畿近代美術館

／韓国・京畿道

2012年







| プロジェクト - project

地域で展開するコミュニティプロジェクト
アーティストや芸大と協働したプロジェクト

六条山プライベート美術館

会期：2019年11月1日〔金〕～11月19日〔火〕

会場：六条地域各所 18会場

障害のある人の豊かなアート作品を日常の中で楽しむプロジェクト。展示会場は、たんぼぼの家がある地域のお店や病院、顔なじみの個人宅など。会場と作品のマッチングを行う「お見合い展示」にて、家主自ら、生活にそえたい作品を選び、展示した



ROKUJO-YAMA
PRIVATE MUSEUM

六条山プライベート美術館ができるまでのあゆみ

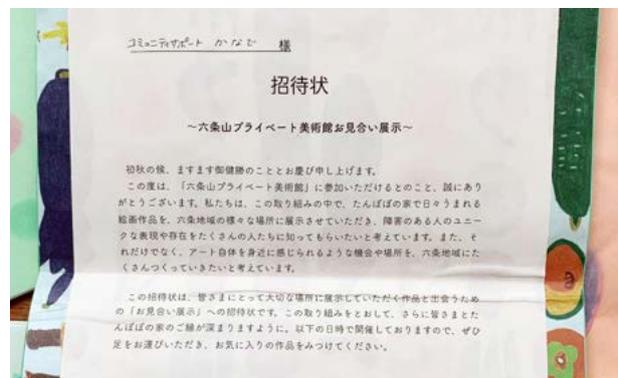
①スタッフの「アート展示」体験

スタッフ自身がアート作品とともに過ごす日常を体験。改めてアートを暮らしの中に取り入れる意味を考える。



②「六プラ」参加のお誘い

「どうやったら地域でアートを楽しむことができるか」を検討し、スーパーや居酒屋、病院や個人宅に作品を展示することに。会場は全部で18会場となる。



③作品との出会いの場「お見合い展示」

約100点の作品の中から、展示会場の家主が自身のお店や生活に添えたい作品を選ぶ。会場には作品を展示したスタッフの想いも紹介。



④「六プラ」開催

六条地域にひろがる作品たち

会場によって展示場所や方法も異なり、そこからは「その人の暮らし」が垣間見えた。



チラシにはアクセスや営業時間の表記はせずに、個人宅や病院などはそこに住んだり通ったりする人たちのための展示となった

写真：衣笠名津美



クリニック



福祉事業所



パン屋



福祉事業所



クリニック



個人宅



フォトスタジオ



スーパー



居酒屋



個人宅

展示会場

<p>1 庄野整形外科</p> <p>「Inspirationシリーズ No.96」 山村 晃弘</p>	<p>2 西ノ京高校</p> <p>「空」 伊藤 樹里</p>	<p>3 コープ七条店</p> <p>「なまよしなあらいてま」 上野 和子</p>	<p>4 コミュニティスペースかなで</p> <p>「バレンシアの火祭り」 スペイン/バレンシア 木村 昭江</p>
<p>5 市橋</p> <p>「竹の子とはおぼ」 西ノ宮 有紀</p>	<p>6 ミラン</p> <p>「InspirationシリーズNo.85」 山村 晃弘</p>	<p>7 おおもろクリニック</p> <p>「アファク」 木村 昭江</p>	<p>8 県立総合医療センター</p> <p>「InspirationシリーズNo.95」 山村 晃弘</p>
<p>9 きよ女性クリニック</p> <p>「夏に生まれた女人、ゆかいな顔シリーズ」 武田 佳子</p>	<p>10 Kijo リハビリ PROS</p> <p>「オシャレ女人」 十亀 史子</p>	<p>11 スタジオデンブル</p> <p>「館のスプーン」 瓦井 隆</p>	<p>12 トータルプランジユ</p> <p>「ハママエ」 山野 寿志</p>
<p>13 六条山カフェ</p> <p>「かよるちゃん」 木村 昭江</p>	<p>14 有縁のすみか</p> <p>「ライムレモン アカミカン」 青木 優</p>	<p>● 鑑賞目的での来場OK ● 鑑賞目的での来場NG</p> <p>5 水曜日以外の16~17時は鑑賞目的での来場OK 12 有縁のすみかの駐車場をご利用ください。</p>	

六条山プライベート美術館の楽しみ方

1

作品との偶然の出会いを楽しもう

六条地域の日常の中に溶け込んだ作品たち。本展は地域に住んでいる方々に楽しんでいただくことが目的です。作品を鑑賞するだけでなく、その日訪れた先にたまたまあった作品との出会いを楽しんでくださればと思います。
展示に関心を持たれた方は、12月3日(火)より「アートセンター HANA ギャラリー」(たんぼの家内)で行われる「報告展 ~想いの窓~」へぜひ足をお運びください。

2

作品の背景を想像してみよう

展示している作品は会場となっているオーナーさんや担当者の方々が選んだものです。「お見合い展示」と題したイベントを10月に開き、6人のスタッフが展示場所に合う約100点の絵画を用意し、その中から選んでいただきました。そんな様々な手をおして、いま目の前にある作品たち。ぜひその背景を想像しながら作品を楽しんでみてください。

3

マナーは守りましょう

本展はみなさまのご厚意とご協力で成り立っています。これからも地域との関係を大切にしていきたいからこそ、マナーを守ってご鑑賞いただくようお願いいたします。左ページにある来場NGと記載のある会場へは行かないよう、ご協力をお願い致します。

※会場には掲載作品以外にも複数作品が展示されています。 ※上記会場に加え、個人宅にもご協力いただいています。

フライヤーには記載可能な会場と鑑賞方法などを載せる

お見合い展示

たんぼぼの家
アートセンター HANA ギャラリー
2019.10.3-5

選んだ作品と写真を撮る会場の人たち



地域の高校の生徒



病院の院長



近所の事業所のスタッフ



報告展「想起の窓」

たんぼぼの家
アートセンター HANA ギャラリー
2019.12.3-2020.1.31

六条山プライベート美術館ができるまでの歩みと会期中に生まれた物語を、展示作品や写真、各会場で作品とともに置かれていたモノを通して紹介



家主と撮った展示会場の写真と作品



展示風景



各会場で作品とともに添えられていたモノ



各会場の来場者が記した感想カード

京都市立芸術大学

×

たんぽぽの家

「OPEN KIT-CHEN」

2018-2019

たんぽぽの家のアーティストと京都市立芸術大学の学生が
6つのペアを組み、作品を取り交わすプロジェクト。作品は
箱に入って届けられ、つくり足すのも、つくり変えるのも、別
の作品を返すのも自由。こうしたやりとりは2018年春から
2019年冬まで行われた。

〈 協働制作期間 〉

2018年春～2019年冬

〈 展覧会 〉

① ギャラリー崇仁 / 京都

② たんぽぽの家アートセンター HANA ギャラリー / 奈良

主催：京都市立芸術大学

共催：一般財団法人たんぽぽの家、社会福祉法人わたぼうしの会

キュレーション：河原雪花、小林奏子、寺岡波瑠

フライヤーデザイン：寺岡波瑠

協働制作「アトラリー」のルール

- ① 2人1組でペアを組む
- ② 先行後行を決める
- ③ 先行の人から作品を制作
 - ※制作はそれぞれのアトリエで行う
- ④ 完成したら後行の人に作品を送送
- ⑤ 作品を受け取り、それを元に制作を行い、完成したら送り返す
 - ※事前の打ち合わせは行わない
 - ※全く違う媒体で返したり、壊したりしてもOK
 - ※ラリーの回数や制作期間も自由



↑送られてきた作品の梱包をとく様子

〈ラリー中の作品〉



報告展〈京都会場〉

ギャラリー崇仁／2019.4.3-14

報告展の会場もラリーし、互いの団体が所有するギャラリーにて展覧会を行う。アーティストで作った作品に加え、手紙や下書きなどの資料も展示。 写真：関人愷

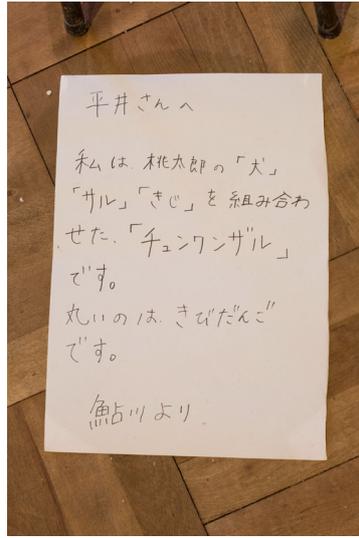


ラリーで作った作品





アイデアスケッチ



ラリー中に行なった
手紙のやりとり



各ペアの印象を詩にした
テキスト

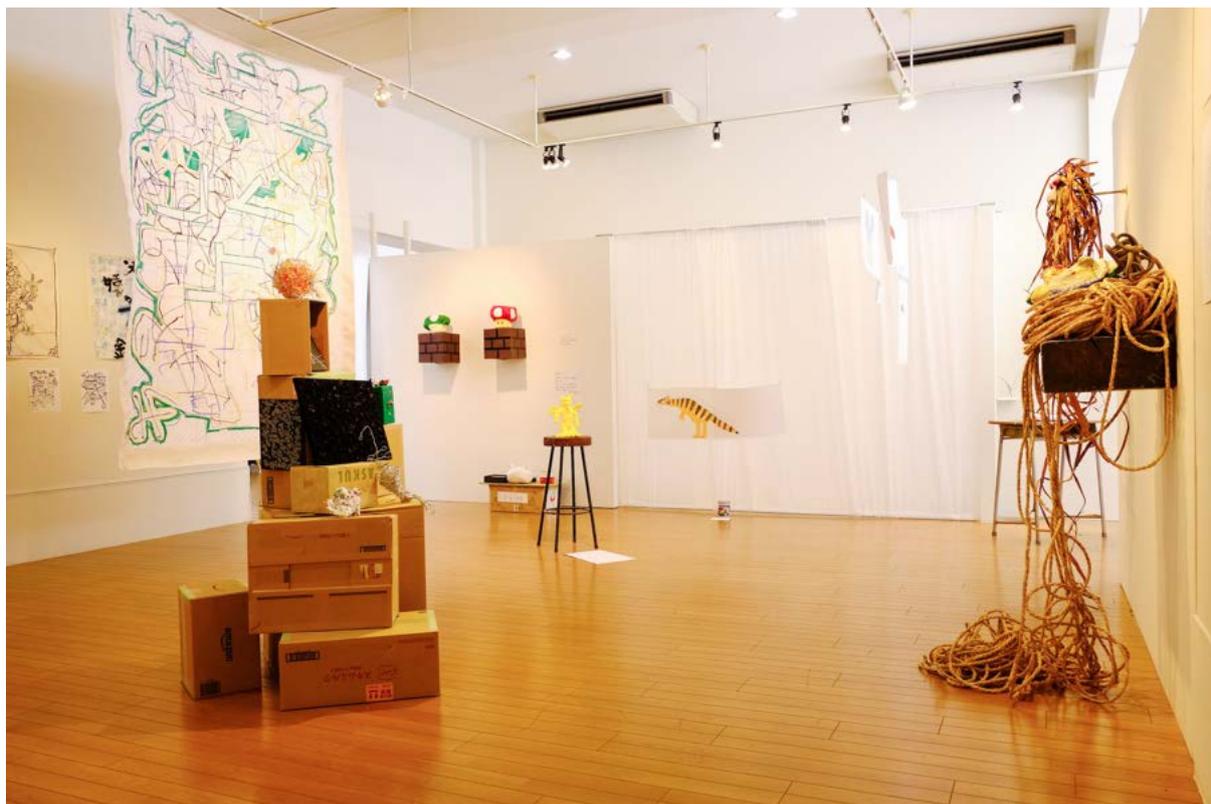


報告展〈奈良会場〉

たんぽぽの家アートセンター HANA ギャラリー / 2019.4.23-5.24

奈良会場の会期中には各ペア同士がアートラリーについて振り返るギャラリートークも開催。制作の舞台裏をざっくばらんに話し合った。

写真：関人愷



展示風景

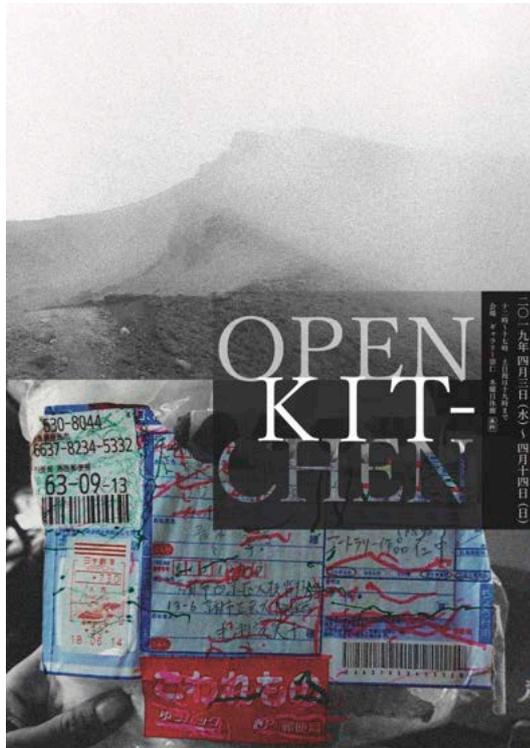


ギャラリートークの風景

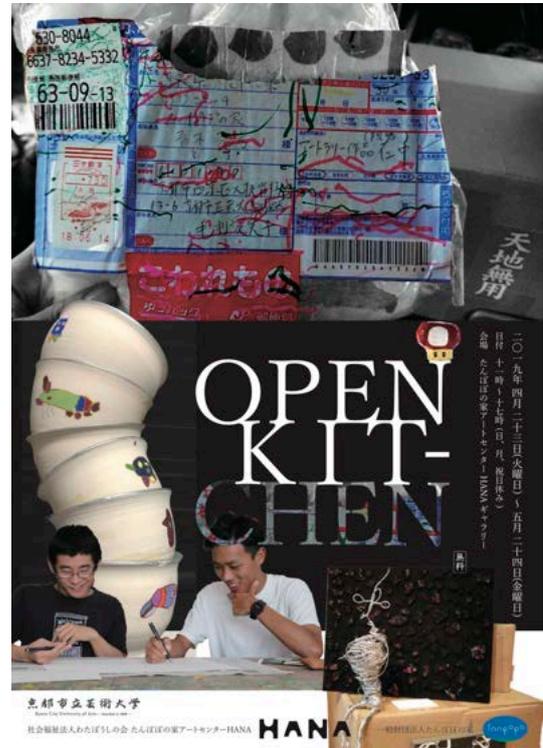


制作秘話を語る作家たち

〈 京都会場 〉



〈 奈良会場 〉



どこからともなく現れ

たがいに気配を感じあいながら遊んでいます

それはまるで霧の中のようにであり

はっきりみえるのは自分の手元だけなのです

たとえ言葉ではなさなくても

彼ら彼女らの声は続いています

参加プロジェクト



「NEW TRADITIONAL つくることの喜びにふれる2日間 - 音の茶会 -」
障害のある人とともに、伝統工芸をとおして新しい生活文化を提案するプロジェクトに出展



「ART GUSH IZUMI CITY」
関西所縁のクリエイター 30 組が和泉のまちにパブリックアートを作るプロジェクトに参加



「いのちの森プロジェクト@Livedo コーポレーション愛媛新居浜工場」
いのちの森をテーマに医療キットをつくる工場に4mを超える壁画を5点を描き下ろす



「24時間こたつラヂヲーひねってまたいで音楽でー」
開かれた福祉をつくることを目的に、24時間施設を開き、様々なWSや講座を行う





| コーディネート - coordination

他施設の障害のあるアーティストを
取り扱った企画展

「アートをしたい」施設へ出向いた
プログラムのコーディネート



PATH OF ART

— 表出から表現へ —

「あいサポート・アートセンター」より、他施設の障害のあるアーティストも含めた企画展の依頼。鳥取県、愛知県、京都府、奈良県の作家を紹介する展覧会を4会場で開催する。

主催：鳥取県、あいサポート・アートセンター

企画：一般社団法人アートスペースからふる

社会福祉法人わたぼうしの会たんぼの家アートセンター HANA

協力：NPO 法人くるくる、社会福祉法人さふらん会さふらん生活園

社会福祉法人みずなぎ学園みずなぎ鹿原学園

PATH OF ART

- 表出から表現へ -

〈 コンセプト 〉

好きで続けていたことが作品とよばれたり、線を重ねた色彩が絵画として見られたり、自身の想いを綴ったものが別の誰かの心に響いたり…。福祉の現場の中では、ただの個人の習慣を超えた豊かな営みが日々生まれ続けています。そんな毎日の出来事を“展覧会”という場所で見せるということは、どういう意味をもつのでしょうか。

本展では、生活と表現が密接に結びついた6人の営みを公開し、“作品”とよばれている個人の行為について考えます。「生まれること」と「生み出すこと」、「見られること」と「見せること」。表出と表現が入り混じる、豊かな世界をお楽しみください。

〈 出展作家 〉



「アイロンピース」
花井聡香
(くるくる／愛知)



「コピー」
井口直人
(さふらん生活園／愛知)



「シリーズ・工作」
澤田拓磨
(アートスペースからふる／鳥取)



「Asuka Piano (あすかとピアノ)」
澤井玲衣子
(アートセンター HANA／奈良)



「おしゃれな女の子」
富丸風香
(アートセンター HANA／奈良)



無題
美濃射彩子
(みずなぎ鹿原学園／京都)

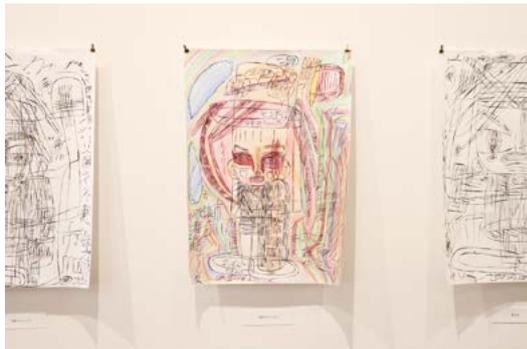
鳥取会場

ギャラリーからふる



「コピー」制作動画

※自身でプリンターの設定を変え、色を調整し、顔を押し付けコピーをする



鳥取会場

鳥たちのいえギャラリー





「アイロンビーズ」制作動画



モチーフにもなっている習いごとのピアノの練習風景

倉吉会場

くらよしアートミュージアム 無心



来場者の落書き



富丸の落書き

出展作家の富丸はスタッフの背中に落書きを貼って遊んでいる。本展ではそのスタッフの等身大パネルを設置し、彼女のコミュニケーションを追体験するWSを開催。



〈 ギャラリートーク 〉



展示作品の解説



作品のモチーフになっているピアノを
出展作家の澤井が自ら演奏



澤井 玲衣子
「Suisen」
(51.5×36.5cm)



松尾 由佳 「対馬ナイラ海岸の日の出」(38.0×53.8cm)

背伸びするモメント ~Reiko Sawai Yuka Matsuo

背伸びするモメント

— 澤井玲衣子 松尾由佳 —

高島屋大阪店ギャラリー NEXTより、福岡県でアート活動を行う松尾由佳とたんぼぼの家の澤井玲衣子の企画展の依頼。同じコンセプトで前期・後期に別れ個展形式で展覧会を行う。

主催：高島屋大阪店ギャラリー NEXT

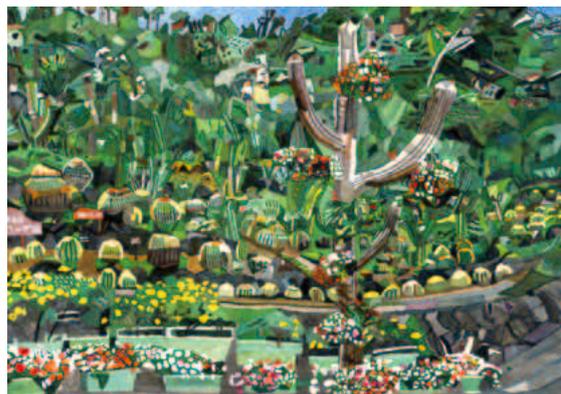
企画：社会福祉法人わたぼうしの会たんぼぼの家アートセンター HANA

協力：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン

| 松尾由佳 |

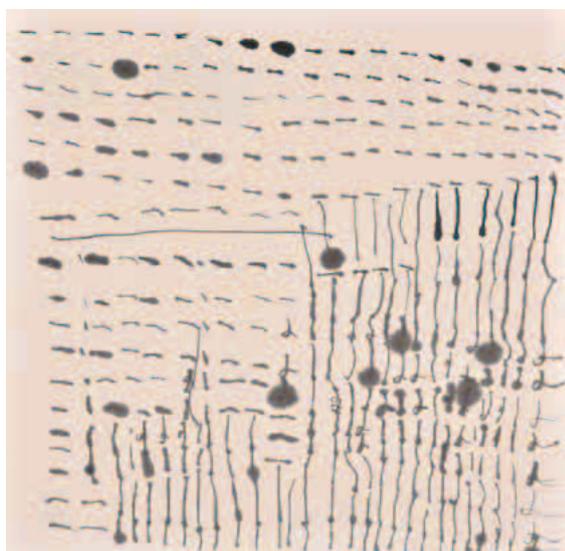
福岡

※個人で制作活動を行う



| 澤井玲衣子 |

アートセンター HANA / 奈良



松尾由佳 展



澤井玲衣子 展



〈 ギャラリートーク 〉

作家と支援者より

展示作品について紹介





アートプログラム コンサルティング

愛知県にあるNPO 法人くるくるが立ち上げるアートプログラムのコーディネート、約1年にわたり行なった事業。月に1度くるくるへ訪問し、1年の活動をまとめた報告展も開催した。

主催：NPO 法人くるくる

共催：社会福祉法人わたぼうしの会たんぼぼの家アートセンター HANA

協力：一般財団法人たんぼぼの家

事業内容

〈 事業所 〉

NPO 法人くるくる 刈谷大正センター（生活介護事業所）

〈 目標 〉

- ①アート活動を通して、利用者自身が自分で関心のあることや感じていることを表現できるようになり、他者との関わりがより活発になる環境をつくる。
- ②普段とは違う視点で利用者を見つめ、新たな側面を発見できる機会にする。

〈 期間 〉2018年12月～2019年12月 ※プレ研修：2018年11月

A) アートプログラムに関する研修業務 / 2018年12月～7月(7回)

- ・アートプログラムに関する基本的な知識や技術を学ぶ
- ・障害者アートの様々な事例、全国的な動向を知る

B) 成果報告展業務 / 2019年8月～12月(3回)

- ・利用者が作品を発表することで、自身の表現を見てもらう喜びを知る
- ・発表を通じて、利用者の生み出す表現の理解を深める
- ・展示に関する基本的な知識や技術を学ぶ

※報告展「表現の気づき-さぐる くみとる またさぐる-」

会期：2019年12月5日(木)～12月20日(金)

会場：NPO 法人刈谷新栄センター 4階



A) アート研修の風景



B) 報告展展示風景

コンサルティングのはじまり



○ 背景

アートプログラムの立ち上げを行なった、「NPO 法人くるくる 刈谷大正センター」(生活介護)では、公園の掃除や機会部品の仕分け作業などを行なっている。やりがいのある仕事は充実している一方で、自分の好きなことを育む機会をつくりたいと考えていた。

○ NPO 法人くるくる

「誰もが自分らしく暮らせる社会を創り、よりよい未来を切り拓く」という理念のもと、設立して15年。年齢や障害の程度にかかわらず、切れ目なくサポートする支援システムの土台を作り上げる。愛知県刈谷市を中心に6拠点、職員数110名、複数の福祉サービスを提供。

*生活介護、ホームヘルプ、グループホーム、放課後等デイサービス、就労移行支援、就労継続支援 B 型、就労定着支援、自立訓練、障害者就業・生活支援センター

アートコンサルティングの内容

アートプログラムに関する研修業務 / 2018年12月～7月(7回) ※プレ研修:11月

①(プレ研修) アート体験「模写 WS」

たんぼぼの家でアート活動を行うメンバーの紹介と、展覧会やアートプロジェクトの事例を報告。また、スタッフ自身にアートを体験してもらうため、たんぼぼの家のメンバーの作品を模写するワークショップを行う。



①アンケートによる聞き取り

各スタッフにアートプログラムに期待することをアンケートで聞きとり、プログラムの内容を組み立てていく。



②画材や素材、環境の整備

くるくるの利用者に対して、興味・関心がありそうな素材を提供。机の配置や画材のアドバイスをし、アトリエの環境を整える。



③たんぼぼの家のメンバーの公開制作

たんぼぼの家のメンバーがくるくるに訪問し、他の利用者の中に交じって公開制作を行う。



④たんぼぼの家でのアトリエ実習

くるくるのスタッフと利用者がたんぼぼの家のアトリエで、メンバーとともに活動を行う。



⑤ 愛知県内、関西圏内にある施設の見学

- ・ やまなみ工房／滋賀
- ・ なないろサーカス／奈良
- ・ Good Job! センター香芝／奈良
- ・ ヨナワールド／愛知
- ・ ポパイ／愛知



⑥ 「しえんかいぎ WS」

アートプログラムで活動する利用者の支援内容やプログラムの目的を、ワークショップ形式で考える「しえんかいぎWS」を開催。



⑦ くるくるのスタッフによる振り返り

くるくるのスタッフから今までの研修の報告発表を行う。現場の変化を振り返り、今後の目標をスタッフ全体で共有する機会をつくる。



①展示にむけた話し合い

展示の目的、時期、会場、今後のスケジュールなどを話しあう。また、くるくるの利用とともに「あいちトリエンナーレ」を鑑賞。初めて美術館へ行く利用者もいて、新しい体験となった。



②ワークショップの実践レクチャー

くるくるの利用者・大蔵直裕さんの出展作品をともにつくる「大蔵賞 WS」がスタート。



③展覧会名の決定、展示準備

報告展のタイトルが「表現の気づき - さぐる・くみとる・またさぐる -」に決定。この数ヶ月を通じて改めて気づいた利用者の表現と、利用者に向けるスタッフの視点を紹介する企画内容にする。



④報告展「表現の気づき」

展覧会の搬入をくるくるのスタッフとともに行い、展示方法や道具の使い方などを伝える。また、この1年間のアートプログラムの活動と、展示している作品を紹介するギャラリートークも行った。



報告展「表現の気づき - さぐる くみとる またさぐる -」

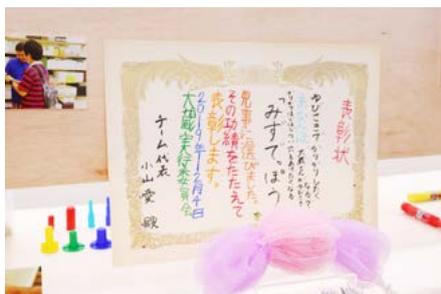
NPO 法人刈谷新栄センター 4階

2019.12.5 - 20

くるくるのアートプログラムは絵を描くことを目的にせず、「その人の表現を育むこと」を目的とした。報告展ではくるくるの利用者の「好きなことや得意なこと=表現」を、スタッフが書いた紹介文とともに展示する。



展示風景



「大蔵賞 WS」

大蔵さんが気になるものを探すワークショップ。その日に大蔵さんが最も触ったモノにポイントをつけ、一番票が集まったモノを選んだ人に大蔵賞を与える。



くるくるのスタッフが書いた作品紹介とともに展示



会期中には出展作家が不定期に登場

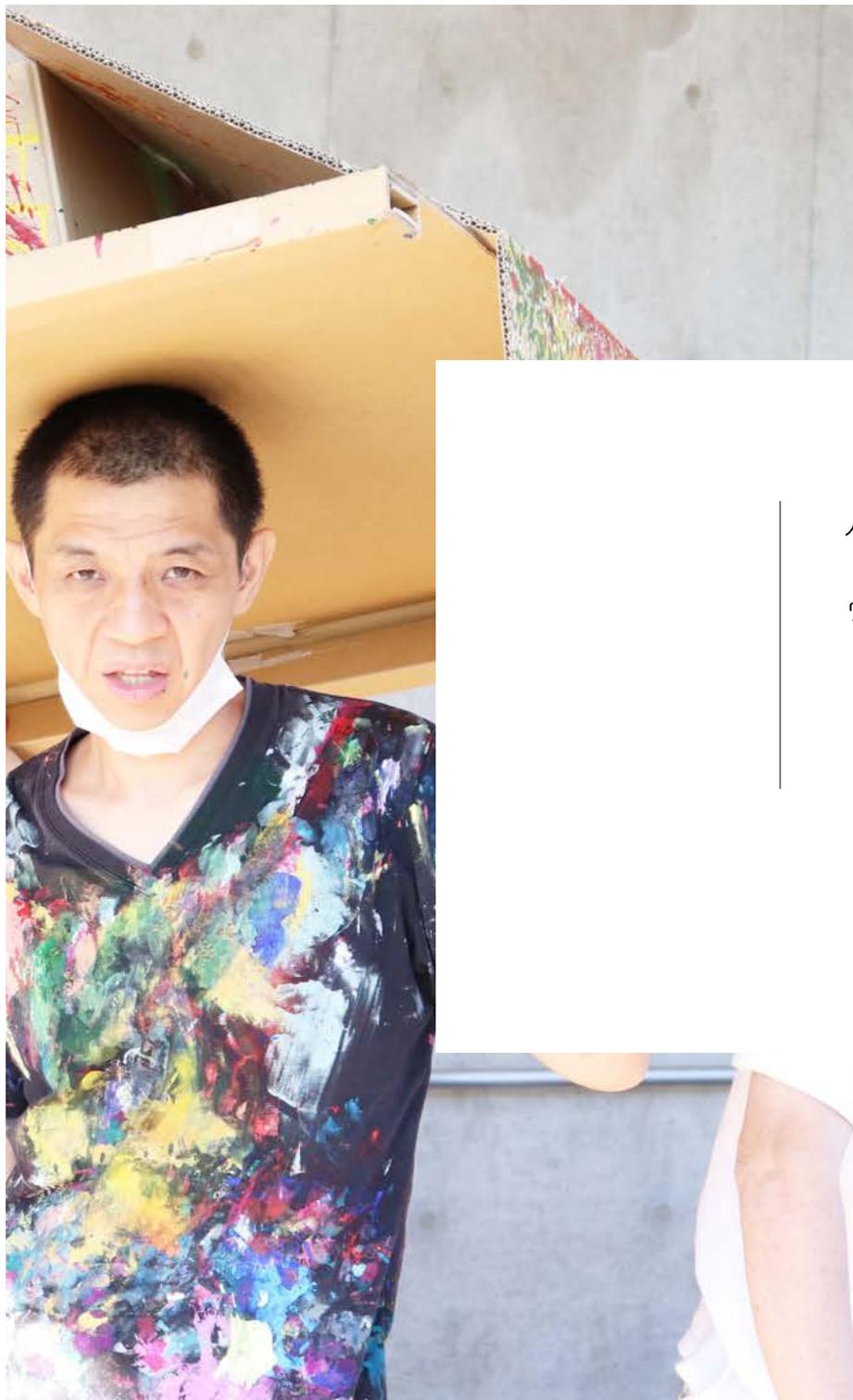


黒のパンプスが好きな人は靴を展示



細密に貼られた貼り絵





パフォーマンス

ワークショップ

講演

公開制作



| 2016年：成果発表@京都芸術センター |

状況のアーキテクチャー

Tracing Voices: ラップ × ケア × アート

Shing02（音楽家 / ヒップホップ MC）

倉智敬子 + 高橋悟（美術家）

2016～2017年にかけて行われた協働プロジェクト。「生きたコトバ」をテーマに声や音を使ったWSを行う。異なる感性、思考、リズムを持つ人達による「新しいコミュニケーション」の実験の記録と、その成果をライブ形式で発表した。

主催：公立大学法人 京都市立芸術大学



2017年：
成果発表@京都市立芸術大学
(アートミーツケア学会にて)



HANAPLAY 「僕が生まれた日」

日常の体験談をもとに様々なシーンをつくる、たんぼぼの家の演劇プログラムの作品。学校時代の出来事や恋愛話、突然他界したメンバーのことなど、参加者それぞれの記憶を重ねた物語を、演劇作品として発表する。



| 「コモンズフェスタ2020」での公演（主催：應典院寺町倶楽部） |







→ 川尾朋子のパフォーマンス



ブラッシュ・アートWS

川尾朋子（書家）

文字や墨の表現でダイナミックな作品を作るWS。障害者、学生、子ども、大人,,,様々な人がWSを通して自由に交流する。

→ 即興音楽が会場に響きわたる





ドドン・ポ・プリプリ・キュ

黒川 岳（美術家）

鮎川 奈央子（美術家）

アーティストとともに協働したWS。
担いだり、身に着けたりしたいものを
ダンボールで作り、参加者全員で練り
歩く。





奈良県障害者芸術祭
- 障害 × アート × なら -

創作ワークショップ
「どうぶつスタジオ」
「HYOUSHIKI 工房」

メンバーのアート作品をテーマにした
WS。完成した作品は芸術祭期間中に
展示。

どうぶつスタジオ



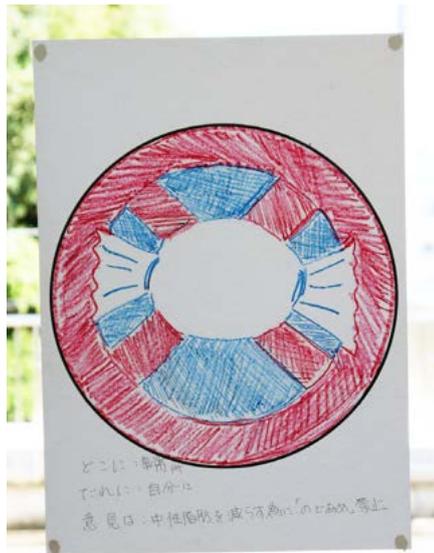
HYOUSHIKI 工房



中川政七商店（近鉄百貨店奈良店）
「水彩で描くかけ軸飾り」

まる、さんかく、しかくで植物を描くメンバーの前田考美と一緒に、水彩や墨を使って小さなかけ軸に絵を描くWS

作家本人も参加者と一緒に制作



標識をつくるメンバーの創作を参加者で追体験する



WSのテーマになった作品をつくるメンバーの公開制作

和歌山県障害者芸術文化活動
普及支援事業人材育成研修

障害のある人を支援する団体や個人を対象とした研修にて、たんぼぼの家の活動報告と、アートを学ぶWSを開催。研修のあいだは公開制作も行われた。



「公開制作」

てんかん学会の作品展示会場にて

作品を展示している会場にて出展作家
の公開制作を行う。



